

ドイツ歯科事情

ドイツ歯科医師協会 (IDZ) 通信 (抜粋)

抄録

ドイツ歯科医師協会 (IDZ) は、これまでに外部のプロジェクトパートナーと提携して、歯科業界および医療政策に歯科の基盤に関する方向性を提供する目的で、ドイツにおける歯科医師数の予測を繰り返して提示してきている。仮定に基づかざるを得ないため、予測は不確かな傾向があるものの、新規の結果を含めたその時々々の予測を更新するという科学的観点からは必須であると考えられる。

現在の研究報告の表題は、

「**2030年までの歯科医師数および歯科治療の需要の予測**」である。

2030年まで、最近の登録歯科医師数を含めて更新された予測、およびドイツ連邦統計局により更新された人口予測を表す。同時に、最近の口腔疾患罹患率の傾向（例えば、第4回ドイツ口腔保健研究 (DMS IV) において報告された歯周病）を考量して、歯科治療の推定需要を修正している。

例えば、1年ごとの登録歯科医師数のかなり控えめな展望（変数 3）およびかなり控えめの人口推移に関する想定を、ドイツにおける人口に占める歯科医師の割合の予測として以下に示す。

年	開業歯科医師	人口に占める歯科医師の割合
2010	66.243	1.236
2020	64.798	1.236
2030	61.283	1.260

当然、1年ごとの登録歯科医師数に関する他の仮定上の変数を予測的に算出した場合に、この結果は実質的に変化する。したがって、本報告では、同時に同じ条件で3つの変数（最大／中等度／控えめ）を提示する。

考察

歯科医師数の推移に関する、特に初期の予測修正はいくぶん歯科医師数の予測を見積もりすぎる結果となっていた。直接の理由は、時としてかなり多い歯科医師免許取得者数を予想するからである。PROG20 モデルに基づく 2004 年の最後の予測は、過去の予測に比べて現実的な推計を提供しているものの、その時点でのデータのため、予測される免許取得者数に関しては、現時点ではまだ高すぎる（！）。まず、おそらくここ数年の観察が、公表されているよりも研究脱落例が多く起こっていることを示すが、このことが「自動的に」代替の研究を供与するわけではない（2008 年 HIS プロジェクトレポート参照）。したがって、歯科医師の供給状態は、以前の予測が示唆するのとは反対に、2030 年までの供給と重要なバランスによりさらにその特徴を明らかにすることができる。しかし、長期的に歯科医療を実施する免許取得者のさらなる減少は、歯科医療サービスの需要をカバーする上で不足をきたす可能性がある。

これらの最近の部分的な進展より、現在提示される予測は推定される免許取得者数をさらに注意深く数量化する結果になっている。遺憾ながら、現在公式の統計は、もはや免許取得者に関して検証された情報を提供するものではない。最終的には、今回行われた机上調査では、免許取得者の減少（特に 2005 年と 2006 年）が、単に見かけ上のものなのか実際の低下を示しているのかを、確実に決定することはできなかった。

先に記した人口と罹患率傾向は、特に保存および補綴治療の分野においてサービス需要の低下、または特に補綴において治療上の資源の転換（可撤式から固定式へ）をきたすことが予想される。しかし、サービス需要の低下は、おそらく治療期間の短期化と同時に起こるであろう。長期的には、バランスは進展していくであろう。同様な構造パターンが「供給密度指数」（治療活動している歯科医あたりの人口）に関しても認められる。少なくとも、現在最も確実であるとされる予測変数 3（毎年 1,700 名に免許が与えられる）により、職業的に活動している歯科医師あたりの広く安定した人口比を、全予測期間中に認める（表 A7 を参照）。

現在の予測に関して、多くの点で、確認済みの情報を活用する代わりに、規準となる条項に従って取り組むことが必要である。目的とする信頼性を予測することが必ずしも保証できないことは遺憾であるが、今回の方法は、全体として正確な評価が不可能であるにもかかわらず、案内標識なしでやみくもに前に進むよりは好ましいという見解を支持する。したがって、本論文で提示した 2030 年までの予測モデルの認識論的価値は、ドイツにおける歯科健康管理の将来のために、「厳格な規律での創造的思考」に関して体系化された基盤を提供する発見的問題解決機能を、第一に有すると考えられる。